

介護職目指し 日本語特訓

県内初就職向け高難度講座

外国人8人挑む

「職場の上司に伝えると
思って、会話の内容を口頭
で報告してください」。1
月27日、徳島市内の県労
働福祉施設利用者と、食事
の介助をする職員の会話が
収められたCDを聞いた
後、講師が問い掛けた。
「右手がまひし、左手で
スプーンを使っています」
「自分できれいに召し上が
りました」。出席していた
受講生7人が一人一人、答
えた。

徳島県在住の外国人8人がホームヘル
パーなどを目指し、徳島市内で開く「介
護の日本語講座」で猛勉強を続けてい
る。講座は、就職に向けて高いレベルの
日本語を外国人に習得してもらおうと、
県労働者福祉協議会が本年度始めた。こ
れまで同レベルの日本語講座がなかった
だけに、参加者は「ありがたい」と口を
そろえている。

この後、受講生は利用者
と職員役に分かれ、食事介
助の会話訓練。職場での報
告書作成を想定し、会話の
要旨を書く練習も。専用テ
キストに沿って約3時間勉
強した。

講座は昨年11月16日スタ
ート。3月11日までの延べ
40日間開かれる。講師は市



介護現場で通用する日本語を学ぶ受講生＝徳島市内の
県労働福祉会館別館

級養成講座」も受講してお
り、2人は既に修了した。
中国人受講生の趙秀艶さ
ん(27)＝徳島市名東町2、
主婦Ⅱは2004年末、結
婚を機に来県した。「育児
が一段落し、仕事をしたい
と思った」。ヘルパー講座
も受けており、今月20日に
修了する。介護の現場は
「重労働、低賃金」と言わ
れ、離職率が高いが、他の
職種に比べ求人数が多い介
護職を目指すことにした。

同じく中国出身の王玲さ
ん(51)＝小松島市大林町森
ノ本Ⅱは来県して1年半余
り。同市内の介護老人保健
施設で働きながら通う。ヘ
ルパー講座を先月修了し
「仕事が楽しいので、同じ
職場でヘルパーとして働き
続けたい」と笑顔で話す。

講座は、県の委託事業で
緊急雇用対策の一環。協議
会の担当者は「経済連携協
定で外国人研修生が派遣さ
れても、現場は言語の壁に
苦労していると聞く。即戦
力として働ける日本語能力
を養成したい」と話してい
る。